
なすりい らいむ

ame*

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なあすりい らいむ

【Zマーク】

Z8871E

【作者名】

ame*

【あらすじ】

ひらがなだけで書いた、不思議モードの詩。毒入りかも。

ねじねじ

ねじねじ

ひとつ
だけ
しつもん
を
わから
べだれこ

あなた
は
ふえありい
が

みえる

ひと

ですか

ねじ

あの
そら

に

のびる

むげん

のかいだん

の
とひめう

の
むじりば
じんぬい
の
れつ
せんとう
は
まえ
に
すすんで
いる
のか
のか
あとずわつて
いる
のか
わからない
けれど
は
その
すと
れや
で
はなやか
に
おじりて
いる

あの
げーむ
を
けつて
あそぶ
すがいこつ
が
は
はじりまわる
こどもたち
は
だいち
や
もり
や
くも
けれども
しるえっと
の
きりとられた
えいえん
に
は
それ
じかん
です
の

で、
が、
を、
すべて、
きまつて、
おわり、
に、
して、
しまう、
ひと、
を、
なんとか、
それ、
のばかり、
と、
を、
めぐりして、
います、
それ、
が、
すべて、
はじまり、
の、
から、
そんぞい

で そこ はて の よる と ひる ひからびる に からから が だいち やがて えいえん けつして ではありません は それ でも ですから しすてむ な の いる して の せかい

おひなわれる
やみ
のなかの
まつり
でいりうい
はいりわれます
だんまつま
あとおびつ
のからだじゅう
からち
をち
まきちらして
たおれた
その
したい
から
はから
しょくぶつ
しかし
が

めぶ
この
に
せかい
ひかり
が
よみがえり
ほうじょう
の
ときが
ねどずれる
でしょう
あなた
は
ふえ
あります
が
あなた
は
ひと
みえる
ひと
ですか
もし
そうだったら
あなた
は
あの
おどりば
で
ふえ
あります
と

いっしょ

に

おどれる

かも

しれません

みおひす
ちじょう

の

あたり

いちめん
に

はなばな
が

は

はなばな
が

わきみだれ
わきみだれ

でも

その

はなばな
は

にんげんたち
に

やすらぎ
を

あたえる
ため

たいていの
に

せかい
の
すべて
の
やぶれさつた
ゆめたち
は
その
ねもと
で
くさりはて
はなばな
の
よつぶん
と
なりなさい
あなた
は
ふえありい
が
みえる
ひと
ですか
あなた

ふえ
ありい
は
ひと
みえる
が
ですか

せかいが しんだ あとの ひがい

せかいが しんだ あとの ひがい

せかいが しんだ あとで
あたしは うまれてきたの

りびんぐの そふあ の うえに
ほんとうに とつぜんに

とつぜん うまれてきた あたしには
ほいくきの きおくの かけらも
あかちゃんだった ころも
こどもじだいも ない

でも あなたは けつしてそれを
かわいそだなどと おもわないで
みじめには かんじなけれど
ぶじょくされた きふんに なるから

まどがらすの やとは だましえの まち
あたしは おもてに でて
そこを ひとり あるいてみる

おやぢつこられた まちは
こんすいに おちいつたまま
たそがれいろが しみついで
せんたくしても おちない

せかいが しんだあとで
あたしは うまれてきたの

あたしは おおきな こえで
せかいじゅうに むかつて いつの

せかいが しんだあとで
あたしは うまれてきたのだと

だれかが あたしの かみを
みんな きつて しまって
それは かぜに のつて
そらの たかみを わまよつ

あなたの しわざだと しても
うらむ きもちは ないから
たつた ひとつだけ ある
わざやかな おねがいを きいて

せかいを おもいだす よるには
そうげで つくつた ふえを ふいて
さみしい しらべでも いいけど
なるべく かわいた ねいりで

せかいが しんだあとで
せかいを おもいだす よるこは
ふたりで ・・・・
・

Moon Beam Boo-ble

Moon Beam Boo-ble

かうとと といとよ むーんびーむ ぶギー
じんやの おつかれまは
うあがりの かーあくら
せどよー あかるだね

しんざつのは ゆねじやなにナビ
ふかみどりの もりのおくでは
まじょたちが あつまつて
れせとが びーぶーーすなん

だつて ひとつに いつかにじや
ちけつとは とても たりない
せんねん わせまで セーるじめいと
みんなが ゆつせゅうふまん

しづれる わたーで むーんびーむ ぶギー
おおきな なべの なかでは
よだれが でわやうよ まつぐるな しつるー
ひきがえるや とかげも たべーひ

それから じこつも おすすめ
ふしづれな ペペーみんじじっく
のんだら とんでく よがりの ひつぺん
まぬけな ゆのなか わいえるよ

だいじめおひでひめは やべつしな
おひこせれも まーむれすも
どひせつも せかへしも てひつすとも
だから みんな おこどよ

でーとを どたきやん されたこ
いえやえ かられたことのなこ あんたも
おかねが なくとも だいじょうぶ
そこんで すべて おーけー

るあわ おひめつよ むーんびーむ ぶわー
つかは もう しずむよ
よこいで こよひなんて おもわなきや
だれでも やのばで わせんびーせっぴー

いかした びーとの むーんびーむ ぶわー
いますぐ せかいが おわつても
なんにも カたする ひとつはなこ
れつづくー くれーじー なつ

おべすり

おべすり

おべすりを ちゅうだい
べつに じょうきでは なこの
でも おべすりを ちゅうだい
ばかに つたる べすりな
まにあつしるわ

だけど おべすりを ちゅうだい
あの おべすりを ちゅうだい

たのしこ めぶんになる おべすり
しあわせこ なれる おべすり
せかじが ぱらいろに かがやいて
さつきまでの かなしみや くるしみが
うその ように めえたりしてしまつ
そんな ひみつの おべすり
そう あの おべすりを ちゅうだい

にんげんは くるしむために
うまれてきた わけじや ないから
いつも たのしく すてきな めぶんで
すごしていく けんりが あるわ
だから あの おべすりを ちゅうだい

ほかに なにも いろいろ
おべすりが あれば いいの

かぞくと すゝす だんらんの とれや
ともだちと もわいで いたとき
こいびとと いつしょの あまい じかん
それなりに ときめきは したけれど
でも それとは ゼンゼン
くらべものに ならないくらい
すてきな セかいが あるのだわ
あたしは しつている

ただ やさしい ひかりの なかで
ゆるやかに たゆたう じかんと
いつたいに なつて
それを かんじて いる

いちにちじゅう
なにも しないで
なにも たべないで
ほほえんでは いるけど
だれも あいたないで

くうきに とけていく からだ
てんに まいあがる ひいろ
そして そのとき あたしは
えいえんと むつみあう

だから あたしに かまわないで
あたしに はなしかけないで
あたしに たいして
よけいな かんじょうを もたないで
あたしの ゆるやかで

いつふくな じかんを わせなこで

おくすりが きれる とき
それは かんがえる だけでも
みのけが ょだつ ことだわ

みじめぐるしく みにくい
そんな じぶんに とつぜん せびこして
どうしようもなく やみしくなる
かぎりなく あたしを さいなむ
ふあんの きよだいな かげ

そのときが あまりにも おぞろしいから
どうしても それだけは 避けたいから
いまは そういう つゆうで
おくすりが ほしくなるのかもね

おくすりを ちょうどいい
おくすりを ちよつだい

もう どうでも いいの
あなたが なにを いつても
せつとくじょくはないし
よけいな おせわだわ

とにかく おくすりが ほしくの
たぶん あたしは
ひとを だましても
ぬすみを おかしても

だれかを いろじて でも
おくすりを てにいれるわ

それは ただしこじとこ ちがいないわ
だって そうとしか かんがえられないもの

にんげんは くるしむために
うまれてきた わけじや ないから
いつも たのしく すてきな きふんで
すくしていく けんりが あるわ
そう ぜつたいにあるわ

でも きっと また
あの すばらしい じかんは やつてくる
あたしは しつていの
かぎりなく やさしくて
おだやかな せかいを
だって あたしは そこに いたのだもの
そして きっと また あそこに いけるわ

だから

おくすりを ちょうどいい
おくすりを ちょうどいい
おくすりを ちょうどいい

ねむこべくのんがみ

ねむこべくのんがみ

うなりじえを あげるのに いいかげん つかれて
きたかぜは どいかへ こつて しまいましたか
まるで どいかづたけの よりひ
ねむつていた だいぢに
めざめのときが ちかづいて つぶやく
ねぼけたじえを わせましたか

たいようが ちからを とりもどして
あたりは いちめんの ぬかるみ
でも まちは ほほえんで こゐのでしょつ

やがて はなたちの かあペツトが しきりぬられ
もひつけひとつ れきの やらば びやくわ

むかし ほぐが かぜを おいかけて こつたとき
わすれてきた じいじの かけらは
あの ほしを しずめた みずつみの みさわこ
まだ そのまま なのでしょうか

ひやこ るび

こどもは おかしが だいすき
いつも はみんぐを しながら たべる
おきにいりの あにめの てえまそんぐ
おかしを たべていれば
と一つても しあわせ
ままや ぱぱが とめないと
たべづづけて おなかを こわしてしまつ

あのこは あいが だいすき
みつけたら すぐ てをのばし たべる
おとなりの いえに あがりこんだり
まちを あちこち あるきまわつたり
・・・・・
だけど いつまでも
おなかは いっぱいに ならない

あのこは あいが だいすき

つまむせこい

つまむせこい

こんなやね ながれぼしが
とても おおい

しかるに ひとつ

あからで ふたつ

もつと もつと ふつて
もつと はげしく もつと たくわん

いままでになかったほど

そしたら まちのひとたちは みな
びっくりして やとことびでるやしょい

もつと もつと ふつて

そうすれば やがて

あなたもやとこ でるでしょい

そして いつもなら

そらなどみない あなたも

わたしと おなじ

よがりをみる るとぞしょい

もつと もつと ふつて
もつと もつと ふつて

もつと はぢしく もつと たくわん

せかいがおわるまで ふつて

けれど にがつは まだこない

けれど にがつは まだこない

ぼくの まじべの さみしわは
くもに よくにて ねむいいろ
きのうが もように なつたつて
さみは いつでも そらのなか

けれど にがつは まだこない
けれど にがつは まだこない

しろい かつぶの みるくてーー
さめて しまつて ばらもかる
ぎんいろの ハジ おもいだす
なくした ここ の ふたつみつ

けれど にがつは まだこない
けれど にがつは まだこない

びょうつけ

びょうつけ

ぼくはひとりでいるのがすきだ
だれにもはなしかけてほしくない
しかしみんなはそれをりかいできなこようだ

それどころかだれともはなしたくないんだといつても
うんわかつたよといいながらはなしかけてくる
にんげんはみんなだれかにはなしかけてほしいのだと
しんじてうたがわないらしい

ぼくがほんきでやつねもつていてるのが
よみやくわかっても
こんどはそういうのはじるのびょうつけなのだ
といいはじめる
でもびょうきのひとは
たにんをさけたりはなすのがくつうだつたりするが
ほんとうはみんなとつきあいたいし
しゃかいのなかにはじつていきたくて
それでとてもくるしこといつじただ

ぼくのばあいひとりでいるとき
せかいはおだやかにかがやいている
ただみちたりてしあわせなきふんで
すこしもくるしこことなんかない

だからたぶん

まへぢ
びよひあひまがひ
じまひのだ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8871e/>

なあすりい らいむ

2010年10月9日12時39分発行